奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和五年十二月度　入賞句一覧　投句数　六百三　句

一般の部

名和　永山　選

特選

冬立つやエプロンの紐きゆつと締め　福井県敦賀市　山田　美千代

「冬立つや」と立冬になったのである。昨日とあまり変わらないのだが、立冬というだけで何か身の引き締まる思いがする。「エプロンの紐きゆつと締め」に、立冬という季節の節目の思いが伝わる。

冬霞ぐいと山城持ち上ぐる　大垣市　大杉　すみゑ

「霞」は、その向こうの景色がぼんやりと見える。その先にある山城がまさに持ち上げられているという表現で、実景をうまく表している。

点字読み終へ手袋にしまふ五指　養老郡養老町　田中　紫香

点字を読む人が、素手で読み終えたその瞬間を「手袋にしまう五指」とうまく表現した。破調であるが、点字を読む人への作者の心遣いではなかろうか。

秀逸

子を叱り炬燵でゆるり諭しけり　大垣市　安田　むつこ

結界の扉を叩く冬の風　不破郡垂井町　西田　厚堂

風にゆれ光にゆれて散る紅葉　岐阜市　花川　和久

茶屋街の二階は茶房冬すみれ　大垣市　宮脇　和子

小春日や煙草の匂ふ父の膝　岐阜市　田中　淳子

三山は真つ赤に染めて紅葉晴　大垣市　早笘　千恵子

年の瀬や医者の白衣の皺数多　東京都狛江市　椎野　一恵

小春日や力ぬきたる阿修羅像　大垣市　吉田　てるみ

流星ややりたき事の始める日　大垣市　柴田　えり子

何よりも元気が取柄稲雀　瑞穂市　谷　牛歩

入選

盃につぐほのかな香り土瓶蒸し　不破郡垂井町　久保田　紘義

枯蟷螂生きるも死ぬも人任せ　大垣市　種田　美弥子

庫裏にこの幸せ大根煮はじむる　大垣市　酒井　和美

冬星を眺むる帰路や家近し　大垣市　松岡　みつ

神の留守されど一途な頼み事　大垣市　傍島　豊子

飛行機雲ほどけてゆけり秋の空　不破郡垂井町　北村　廣美

一日を巻き戻したくなる小春　東京都新宿区　花澤　ちいこ

膝に抱く猫のぬくもり漱石忌　大垣市　村田　通夫

めしあがれまごと御膳あかまんま　不破郡垂井町　矢部　順子

路地抜けて襟立て直す寒さかな　大垣市　臼井　秀子

朝の息白しハンドクリームの香　大垣市　川瀬　恭子

どことなく落付かぬ日々毛糸編む　大垣市　中山　あや子

路地裏に銭湯残る冬深む　大垣市　平野　きぬよ

白鳥の首柔らかや旅千里　福井県敦賀市　山田　美千代

頃合をみて煤逃げの猫戻る　兵庫県神戸市　岸下　庄二

敗将の陣地の跡や草の花　愛知県名古屋市　岩田　勇

行く秋の書かねば記憶零れゆく　三重県四日市市　後藤　允孝

舶来のセーターばかり虫が喰ひ　埼玉県越谷市　小田　毬藻

つんつんと串で聞きつつ芋煮かな　愛知県尾張旭市　小野　薫

茜雲ふりかへり観る後の月　大垣市　森　茂寿

選者吟

凩や焼鳥屋の火荒ぶれり　永　山

一般の部